

生徒が安心して通える居場所づくり

～ 生徒が主体となる教科指導と生徒指導を通じて ～

学習面

自己存在感の感受を促進する授業づくり「教員が居場所をつくる」

授業において、生徒が「自分も一人の人間として大切にされている」と感じ、自分を肯定的にとらえる自己肯定感や、認められたという自己有用感を育む工夫が求められます。

「すべての生徒の学びを保障する授業を目指して」

～「聴く・つなぐ・もどす」ことを通して、聴き合い・学び合う関係を育成する～

学びの共同体を軸とした授業スタイル（聴き合う関係性の構築）

- ・ペア学習・4人組を活用した協同学習
- ・効果的な問いの提示（共有の課題、ジャンプの課題）

意欲的に取り組める授業

「できる」「わかる」「楽しい」授業

- ・わからないところを聴き合える関係づくり
- ・お互いの考えを共有し合える環境づくり

授業での居場所の確立

生徒指導・学校生活

共感的な人間関係を育成する環境づくり「生徒が絆をつくる」

共感的な人間関係を育成する観点からは、学校生活において、互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団作りを促進していくことが大切です。

「生徒が主体的となった学校生活を目指して」

～生徒が主体となる自治的活動を通して～

生徒会活動

生徒会・委員会を中心とした自治活動の取り組み

- ・校則の見直し ・ボランティア清掃 ・募金活動 など

学級活動（グループエンカウンター（ひらめき体験教室）を取り入れて）

学年委員・係を積極的に動かした学級づくり

主体的に取り組める計画と実行

学校全体で共通した生徒指導

- ・自分のことを認め受け入れる環境づくり
- ・自分の良さ、他人の良さを認め合える環境づくり

学校生活の居場所の確立

特別支援

「不登校生徒、相談室利用生徒の教室復帰を目指して」

～学校全体としての組織的な対応を通して～

- ・相談室やエンカレッジ運営（毎日の個別対応）
- ・週に一度の特別支援校内委員会の実施

各学年の報告と今後の対応について情報の共有と方針を立てる

（相談室の利用生徒、エンカレッジの利用生徒、不登校生徒への具体的な対応など）

- ・年に3回の悩み相談アンケートの実施
- ・スクールカウンセラーによる1年生全員面談

校内委員会を中心とした組織的な対応・指導

- ・個別、小集団による関係づくり
- ・自分のペースで活動できる環境づくり

不登校生徒、配慮を必要とする生徒の居場所の確立

生徒理解の充実をはかるために（教員研修）

- ・発達障害、愛着障害（アタッチメント）、生徒対応についての研修
- ・特別支援教育（特別に配慮を必要とする生徒への対応）についての理解
- ・いじめの対応について（月に3回の報告会とその対応）（7月、12月、3月）